

団体名： 柔道連盟

係名	ディスクゲッター	役員数	4名
場所	メインアリーナ（右手奥）		
運営責任者	菊井 秀樹（柔道）		

運営内容	レイアウト（図）
<ul style="list-style-type: none"> ・受付（チャレンジコーナー用）：参加者にシールを貼る ・参加者：名簿記入 ・簡単な指導 ・何度チャレンジしても可2回目からはフリースペースにシールを貼る。優秀賞の可能性がなくてもなるべく続けてもらう。 ・14：30 受付終了 	<p>メインアリーナ ※ルールは、各コーナーの進行状況により公平性に留意しつつ実行委員の判断で変更可。</p> <p>7m～10m</p> <p>スタートライン</p>
的 1個	
ディスク 大人用：12枚 子供用：12枚	
子供用 7m 大人用10m	
優秀賞：ディスク 12枚 ビンゴ	
パーフェクト賞：ディスク 12枚 9つで	
<p>競技の説明・ルール</p> <p>フライングディスクを投げて、的（9枚のパネル）を狙うスポーツです。難しいルールもなく子どもから大人まで一緒になって楽しむことができます。</p>	

①起源・歴史	「フライングディスク」の原型である「frisbee」は、1940年代アメリカのコネチカット州にあった「frisbeeパイ」のパイ皿を投げて遊んだことに始まると言われます。その後、安全なプラスチック製の「フライングディスク」が改良され、それを使用した様々なスポーツが生まれました。
②遊び方・ルール	・基本的な遊び方：12枚のディスクを投げ、何枚のパネルを抜けるか競う。
③その他	<ul style="list-style-type: none"> ・投げる距離は6m程度が一般的ですが、レベルに応じて調節することで、子どもから高齢者まで同じように楽しめます。 ・その他にも、チームを組んで交代で投げたり、抜いたパネルの合計点数が20点になることを目指したり、工夫などで様々な遊び方ができる自由さが魅力です。

物品名	個数	物品名	個数
長机(開会式で使用した机：グレー)	1	ラインテープ	1
イス(北側非常口)	2	種目の看板	1
ディスクゲッター9 (サブアリーナ倉庫)	1	チャレンジコーナー受付簿	2
フライングディスク (ニュースポーツ倉庫)	大 12	筆記用具・・・ボールペン	3
ドッチビー用デスク (ニュースポーツ倉庫)	小 12	シール	1式